

第一問

(五)	虚	自	構	る	能	か	(四)	(三)	(二)	(一)
a	虚	自	構	る	能	か				
耐	を	し	あ	と	し	て				
性	産	つ	る	で	'	は				
b	出	つ	こ	'	そ	不				
救	し	も	と	そ	こ	可				
済	続		が	れ	に	能				
c	け	新	露	ま	是	あ				
余	げ	た	呈	で	非	あ				
儀	る	な	し	信	を	つ				
	を	難		じ	判	た				
	え	題	判	ら	断	行				
	な	に	断	れ	す	為				
	く	対	基	て	べ	を				
	な	処	準	い	き	科				
	つ	す	の	た	領	学				
	た	る	虚	倫	域	技				
	こ	た	構	理	の	術				
	と	め	性	が	広	が				
	の	を	虚	が	可					

困難を人間の力で解決するための科学技術が問題を作り出し、その技術的  
な解決へと人間を駆り立てつつ、技術では扱えない難題を生み出すこと。  
科学技術は行為の妥当性に囚われなために新たな可能性を次に切り  
拓き、その行為に関して倫理の基準を新たに問う必要を生じさせるというこ  
と。  
行為に関わる判断を最終的に決定する基準を及ぼさざるはざるの概念自  
体が確固たるものでありえず、実際その判断は時代とともに変動しているから。

第二問

(五)	(四)	(三)	(二)	(一)		
光源氏のように、性懲りもなく多くの異性に深く恋慕の情を寄せた人。	玉鬘が、光源氏への返事の手紙を、意識して礼儀正しく書いた。	右近が、光源氏と玉鬘の仲について、どんなことがあったのかと思っっている。	玉鬘の光源氏を慕うながらも会えないのはもともと悲しむ気持ち。	オ	イ	ア
				あなたを慕わないことかあるうつか、いやない	どうして申し上げることができよつか、いやできない	いいかげんなものではないけれど

第三問

(四)	(三)	(二)	(一)		
			c	b	a
立派な猫でも猫に変わりないので、あやこいな名前と考えても意味がない。	どんなに堅固な塀も穴をあける鼠をどうしようもない。	強風を防ぐ塀は風が強いといえるので、猫の名には塀の方がよいと考えたから。	猫に雲と名付ける方がよい	空と漂う雲が必要であり	虎よりも靈妙な力がある
			X	X	X

第四問

(四)	(三)	(二)	(一)
<p>さに陶然とていた自分は、この上な清う足した状態にあつたのだと思つた。</p>	<p>盛りの藤が池に落ちる情景を前にして父と二人で佇み、その尋常ならざる美し</p>	<p>段の遊みで得られない心身に響くような感動や興奮を味わうことができたから。</p>	<p>植物に開く父からの質問や教える契機とし、植物にじかに触れることで、普</p>
<p>じた姉がねたましが、それをどうにもできなさに孤独を感じるとのこと。</p>	<p>聡明な姉とその才を喜ぶ父との親密な関係から、置き去りにされ、そう</p>	<p>で問を出したりと、子供たちの植物への関心や理解が深まるように圖つたこと。</p>	<p>父が子供たちに各自自分の木を手入れ育てる際、心構えを説いたり、身近な例</p>